

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【峰山学園 教育目標】 「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」 【峰山学園 めざす生徒像】 1 主体的に学び続ける子ども 2 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども 3 粘り強く挑戦し続ける子ども		○ 目指す子どもの姿4点を設定し、全ての教育活動において目標を共通理解した取組を進めた。毎学期児童アンケートを実施し、3学期は4点とも概ね90%の児童が肯定的な回答をしていた。 △ 個別の児童課題、指導による課題等により、授業や学級経営に困難さをきたした学級が複数あった。	子どもの将来や社会的自立に向けて、 ◆ 「考えて行動する」力を伸ばす 望ましい判断・行動、思考・熟考、選択、探究 ◆ 「自分なりに表現する」力を伸ばす 多様な表現、アウトプット、自己肯定感、夢・目標 ◆ 「言葉を大事にする」力を伸ばす 話す・聞く・書く・読む、命・人権、名前を正しく呼ぶ
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
学校教育指導の重点、 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	○「探究的な学び」の授業づくりについて、研究推進部を中心として、積極的・意欲的に取り組めるよう、理論的・実践的に学び合っていく。 ○児童実態・課題をベースにして、個に応じた指導・支援を実践する。全国学力調査、府学力調査学びのパスポートの結果を分析し指導に生かす。	○タブレット端末とクラウドを活用して、国語科を中心に授業での他者参照や途中共有をしながら進める探究的な学びの授業づくりについて、校内外の研修をととして理論的・実践的に授業づくりをすすめた。 ○京都府学びのパスポートの結果分析を全教員で共有し、個に応じた指導・支援の充実につなげた。保護者アンケートの「前向きに授業や行事に取り組んでいる」項目では、82%が肯定的な回答であった。 ●発達や愛着等に課題のある児童がどの学級にもおり、対応に追われたり学力をつけきれなかったりする課題がある。
	生徒指導	○児童実態・課題、指導課題等の教職員間の共有を重視し、いじめやトラブルの未然防止と早期発見・解決に努める。 ○多様な表現方法を互いに認め合い、自己肯定感や自己有用感、夢や目標をもって生活することにつなげる。	●個別の課題や事象への対応が後追いになってしまい、授業や学級経営が成り立ちにくくなる学級があった。 ●児童同士の心無い言葉やからかいの延長、規範意識の低さから、いじめ事象も発生した。保護者アンケートの、「子ども達は言葉を大事にしている」項目では、52%が肯定的な回答であり、全項目で最も低い結果であった。 ○問題事象やいじめ対応については、いじめ防止基本方針や校内体制により基本的原則的に対応した。 ○児童アンケート等を活用し、児童が夢や見通しをもって生活を送ることにつなげた。

健康（体育）・安全	1 年間を通した体力向上の取組を進め、児童の体力・耐力を育成する。 2 生徒指導と連携し、ネット・SNS との望ましい関わり方を指導する。	○児童の実態や課題に応じて、多様な体力づくりに取り組み、運動の楽しさに触れさせ、意欲や自己肯定感を高める。 ○学園や学校の実態アンケートをもとに、日々の指導を充実させる。問題事象と指導について情報共有を徹底する。	○マラソン大会や運動会で、児童自身が主体的に選択したり、意欲を高めたりする種目設定を工夫した。 ○市の補助金を活用し外部講師によるランニング教室を開催した。市駅伝大会の入賞等の結果にもつながった。 ●ネットやゲームに依存する児童は年々増加しており、今後も注視して粘り強く取り組む必要である。
(A) 人権教育	1 子どもの命・人権を大事にすることを基盤に、年間を通して人権教育を進める。	○互いの名前を正しく呼び合い、年間を通じて命や人権を大事にした教育活動を進める。 ○教職員の研修や時事の人権課題等の情報共有を充実させ、人権意識の高揚、いじめやハラスメント防止に努める。	●ルールやマナーを守ることについては課題が大きく、様々な問題事象につながっている。 ○年間をとおして研修の機会を設け、人権教育、体罰やハラスメントの防止等について学び、未然防止につなげた。 ○保護者アンケートの「子ども達は仲が良く良い友達関係を築いている」項目では、83%が肯定的な回答となっており、一定学校の取組を理解していただいている。
(B) 特別支援教育	1 支援を必要とする児童への支援体制を整え、保護者や関係機関と連携して支援する。	○保護者や関係機関と連携し、児童の課題に応じた支援と就学指導に見通しをもって計画的に推進する。	○保護者や関係機関と連携して就学相談を進め、新たに入級や次年度の通級につながった児童が複数いる。
次年度に向けた改善の方向性	☐ 児童自身が主体的に「考えて行動する」力を伸ばすことを、引き続き、目標や教育活動の中心に据え、繰り返し、児童に「考えて行動する」ことを促していきたい。毎時間の授業や年間をとおした行事・取組の中で、児童自身が考えたり探究したり、葛藤したり、話し合ったりする場面を意図的・継続的に設定し、望ましい判断や行動ができる力を身につけたり、思考力・判断力を伸ばしたりしていく。 ☐ 今年度の児童の状況、取組の成果課題を丁寧に次年度へ引継ぎ、年度当初より安定した授業や学級経営、学校運営ができるようにする。		